

「なんでだろう??」

大阪府門真市在住 佐藤 南海男

森崎先生を思うときは真っ先に端正できまじめ(そう?)なお顔とあの口髭が目につきます。そもそも口髭は日本人では少数派で、大き過ぎれば尊大になり小さ過ぎるとキザになります。先生のそれは大きからず小さからず程よい大きさでお顔に見事に調和しています。いつごろからどんな理由でそれをたくわえておられるのか自分なりにあれこれ思い悩んでいましたが、先日テレビでイラクに派遣された自衛隊の隊長さんの顔をみていて重大なことに気付きました。ひょっとしたら先生はイスラム教徒ではないのか? そうしたらポンジュールより「モハメド修太」のほうが似合うのではないかと感じてしまいました。私もいつのまにか還暦間近の年になりましたがいまだに悩み事が絶えません。

- ・ どうして先生の絵は観る人の心をなごませるのでしょう?
- ・ どうして先生は少ない色数で思いのままに情景を描くことができるのでしょうか?
- ・ どうして先生はあんなに吟味した額縁を使っているのでしょうか?
- ・ どうして画家は千変万化する表情の一瞬を切り取り、永遠の命を与えることができるのでしょうか?
- ・ 私よりはるかに年上なのに山本さんはなんであんなにバリエーションがあるのでしょうか?
- ・ 石崎さんはなんであんなにおしとやか(?)で魅力的なのでしょうか?



わからないことが多い分だけその人の人生は面白いのだと思います。迷った時は先生の絵を眺めて心を落ち着かせて考えたいと思います。

DM作品・紹介 I



南イタリア特有の陽気でカラフルな町の空気はピンクとパープルのモザイク調に交錯し、楽しい会話が聞こえてくるようだ

-新しい色彩を求めて-

「プロチーダの眺め」20F



ポンジュール事務局の凧ちゃん(小1)が描いたこいのぼり。パールは修太絵画の影響?

「タイムトンネル・懐かしい修太ちゃんとの出会い」 佐賀県 大町町在住 武村 妃呂子



ふと目にとまった応接室のカレンダー。そこに描かれていた絵は、すぐに私の心を虜にしたのです。「この絵は、どのような方が描かれたのだろうか?」そう思いながら、私は作者の名前を見ました。・・・「森崎修太」さん。「えっ?」その時、私の遠い記憶の中にある「森崎修太」さんの事を思い出しました。子供の頃、絵が好きでよく描いていらっやっただけで・・・。7人兄弟で、中学生の時、炭鉱が閉山して大町を去られ、その後、本格的に絵の勉強をされたのだろうか? でも、とても考えられないし、同姓同名と言う事だってあるかもしれない。

私は、半信半疑のまま住所を調べて、失礼を省みず、早速、千葉のご自宅へ電話をかけました。「森崎さんのご出身はどちらですか?」「九州の佐賀県大町町・・・」。まあ! なんと言う事でしょう!! 私の勘は大当たり! 森崎さんは、間違いなく私が知ってる「修太ちゃん」でした。偶然とは言いながら、一枚のカレンダーが縁で、40年前、家族同様の生活をしていたお隣の森崎家との巡り会いになろうとは・・・。御両親の事、兄弟の事、幼かった頃の事、私達の話はつきませんでした。修太さんが中学生の時まで暮らした炭鉱の町「大町」は、今ではすっかり様変わりしましたが、落語に登場する長屋の住人のような世話好きな人情の豊かさは、まだ残っています。そして5月。福岡三越での、燃えるような情熱的な赤、夕陽の美しい赤、透明感漂う作品と、懐かしい修太さんとの出会いは感動的でした。昨年やっと購入した絵は、訪れる人々の目を惹く存在として、我が家の応接室を彩っています。



「 新たな出会い 」

熊本県 玉名郡岱明町在住 中川 祥次

30年来の友人との話から大阪勤務時に旧知の石崎さんが画廊の仕事で福岡に来られる事を知り、一昨年5月に福岡三越で始めて修太さんの絵と出会い、同時に約30年振りに旧知の方々にも再会できました。元来私は写実的な作品が好みでしたが修太さんの絵はどのような作風なのだろうかと期待しながら訪れました。修太さんの絵は写実的なものではありませんでしたが、適度な省略・純化がなされ作家が感じたであろう原風景の雰囲気は十二分に感じさせてくれ、また描き過ぎてもいないために観る者なりの受け止め方が出来ます。時には絵の中に自由に物語を想像できるように思われて、幾つかの絵には強く引きつけられました。私が求めた「海をみながら」は食卓の置かれた部屋とそれに続いた南欧の海を望むバルコニーが描かれたものでした。その中に背を向けて海を眺めている2匹の猫がテラス上に添景として描かれており、猫と共に暮らす部屋の住人のことなど色々な物語が想像できました。今もときおり玄関ホールに架けた絵の前にたたずんでコーヒーを飲みながら見入ってしまうことがあります。いずれの日か修太さんの絵に描かれた南欧をゆっくりと旅してみたいと考えています。



むバルコニーが描かれたものでした。その中に背を向けて海を眺めている2匹の猫がテラス上に添景として描かれており、猫と共に暮らす部屋の住人のことなど色々な物語が想像できました。今もときおり玄関ホールに架けた絵の前にたたずんでコーヒーを飲みながら見入ってしまうことがあります。いずれの日か修太さんの絵に描かれた南欧をゆっくりと旅してみたいと考えています。

DM作品・紹介Ⅱ



赤を「きれい！」
と思う一瞬がある
・・・誰にも・・・

「テーブルのバラ」4F



心地良さそうな表情
もポーズも修太作品
ならではの色彩に包
まれて。

「横たわる裸婦」15P



大濠公園



百道浜



画家の視線「シリーズ」



「博多の修太ギャラリー“林田美術館”」

「よか絵ですな～、楽しみに待ったとですよ」トレードマークのキャップ帽をはにかみながらとってご挨拶して下さる林田さんは福岡での初めての個展からずっと観て下さってる方です。展示会の初日は「魂」をつめて制作に没頭してきた日々から開放され、軽い疲労感の中にいるのですが「今回は九州の方々に何かを感じてもらえるのだろうか？」そんな不安も林田さんの笑顔を見るだけで、なんだかスーッととれる様な不思議な「博多・気質」にあふれた方です・・・

タイトルを林田美術館とさせて頂いたのは、二度ほど林田さんのお宅に訪問させて頂いた折に、他の作家達の作品も数々ある中すでに所蔵して頂いてる私の作品18点が広いリビングルームに、いつも見える場所に！と飾って下さってる様子は圧巻でまさしく画家冥利に尽きる思いでした。

嫁がれたお嬢さん達が来られ、入れて下さった美味しいお茶とまんじゅうを頂きながら（甘党というのも嬉しい共通点）作品の話に花が咲き・・・ゆったりとした時間が体に流れるとても居心地のいいそんな空間。目を細めて心から作品を楽しんでいて下さる林田さんの横顔を拝見しながら、ここはまさしく九州での「森崎修太ギャラリー」「いや「林田美術館」だと実感しました。新ためてこれからも私の心をキャンバスに描き込み、林田さんにいつまでもお元気で観て頂くことを励みにより佳い作品を描かねば・・・と思っております。今回も九州の皆様にお会い出来ます事が今から楽しみです。

2004年 春 森崎 修太

お知らせコーナー

今後の「修太個展」予定

- '04 6/ 1～6/7 ... 札幌三越
 - '04 7/14～7/20 ... 神戸大丸
 - '04 9/14～9/20 ... 広島そごう
 - '04 11月頃 ... 仙台三越(予定)
 - '04 12/13～12/19 ... 東京銀座
- 神戸大丸、広島そごうの日程が一部変更になりました。

